

報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

「切り捨て」より「支援」を

連日ワイドショーをにぎわす、女優酒井法子容疑者(三〇)の覚せい剤取締法違反(所持)容疑事件。角界や大学生の薬物事件では、解雇や退学の厳しい処分が下されたが、「依存症ともなれば切り捨てでは問題は解決しない」と専門家は言う。薬物犯罪の「後始末」を考えた。

(岩岡千景)

今日九日。酒井容疑者の前日の逮捕を受けて、所属する芸能事務所「サンミュージック」の相沢正久社長は「捜査の状況を見て、解雇も含めて検討する」と話した。

昨年、角界を揺るがせた大麻問題では、八月に大麻取締法違反で逮捕された若ノ嶋ら三人の力士が解雇された。学生が大麻を売買したり、所持したりして逮捕された慶応大や法政大、早稲田大などでも、学生は退学や無期停学などの処分。覚せい剤や大麻などの違法薬物に手を出すのは許されない。だが手を染

薬物犯罪の「後始末」



めて罪を科せられたり、社会的制裁を受けたりした人を「組織や社会から切り捨てて終わりにする、自らの健康や社会生と

活、人間関係が破壊されない」と話すのは、薬物依存症の回復支援を手掛ける「日本ダルク」の近藤恒夫代表だ。

近藤氏から見ると、酒井容疑者は「典型的なアダクション」という。井容疑者は「典型的なアダクション」という。井容疑者は「典型的なアダクション」という。井容疑者は「典型的なアダクション」という。

依存症「いい子」がなりやすい

近藤氏は「依存症になる人の傾向の一つは、自れには本人の意思だけで分に自信がなく、いい子なく、生い立ちを含めてを演じてしまうこと」と自身を見つめるケアが必説明。酒井容疑者の「清要。厳しい処罰、根性で純派女優」としての顔とは治らない」と石塚氏。覚せい剤使用の落差も、全国に約五十力所ある「ダルク」の回復支援施設では、入所者が毎日のミーティングを通して生士石塚伸一龍谷大教授い立ちや人間関係を見つても同じ見方をする。「三」

十代後半で初めて覚せい剤をやる人は少ない。依存症では、依存する対象物が変わることがあり、酒井容疑者もそれまでに、覚せい剤でないにしても何らかの依存症はあったのではないかと。酒井容疑者は警視庁の調べに「主人に勧められて」と、高相祐一容疑者(四〇)覚せい剤取締法違反容疑で逮捕と夫婦での使用を供述している。

さらに「世間知られれば、女優の地位を失うことはわかっていて。そのメな物に手を出したダメな人として差別され、合理的な行動自体が、依存り捨てられる。それでは薬物依存症が恋人から恋人へ、親から子へと再生産されて社会はますます悪くなるだけ」と話し、回復するために専門的な治療プログラムが必要だという。

「非合理的な行動を、訴えている。支援」への発想の変換を

NEWS